

高島総合病院の経営について



前川 勉 議員

問 高島総合病院は、市民には安全・安心の重要な砦です。より一層の健全経営を目指すため、地方公営企業法全部適用(※)は大切であるので、次の点を問う。

答 全部適用のメリット・デメリット、その準備状況。

問 病院の機動性・迅速性・自立性の拡大から経営意識の向上につながりますが、行政施策の反映がしにくくなる面もあります。関係者との調整等を進め、9月議会に条例等改定を予定しています。

問 市長と病院の事業管理者との基本的なスタンス。

答 優秀な事業管理者を選任し、市長とも連携を図り運営していきます。

問 「病院改革プラン」の達成度、評価、今後の計画。

答 黒字化など経営数値の目標はほぼ達成できましたが、紹介患者数が下回りました。

問 医師の確保対策と

答 長期勤務策。専門医の資格取得、新しい技術の取得支援、勤務環境の整備を図るなど、医師から選ばれ病院を目指します。

問 真の医療確保。

答 患者さんの目線に立った説明の実践などに努めます。

問 病院としての保健・医療・福祉の連携。

答 高齢化社会を迎え、保健・医療・福祉の連携強化による地域完結型医療を推進します。



患者さんの目線に立った診療の様子

問 全国の健全経営自治体病院から学ぶこと。

答 経営手法の改革、患者さんへのサービス、医師や看護師等の医療スタッフの確保など数多くあり、新病院の経営に生かしていきます。

問 市民環境部管理官

答 区・自治会の規模や財政力などに相当の開きがあり活動にも濃淡がある中、現行制度では多様な地域活動の一面しか支援できず、財源確保が厳しい区等では事業実施できないという課題があります。

問 住民自らの発想で地域づくりを

答 市では来年度より従来の「まちづくり助成」にかわる「地域活動活性化事業補助金」を創設し、区・自治会の活動を支援する制度に取組んでいる。本制度が広く周知されるために以下の項目について何う創設に向けて至った経緯。



コミュニティ活動

問 新制度では、区等の抱える様々な課題に対し一括して総合的に高率な補助金を交付し、創意工夫による活動に取組んでいただきます。

問 新制度の目指すも

答 住民自らの発想で活動を展開されることにより、地域の互助・共同機能が強まり、真に住みよい地域づくりに結び付くものと思います。

問 学校給食は、心身の健全な発展を図ることを目的として実施されるか問う。

答 産業経済部長

今後は、市民の皆様とともに応援をさせていただきます。

問 学校給食米の市補助の現状と今後の対応。

答 産業経済部次長

引き続き地元産米を使用します。

問 高島、安曇川学校給食センターの統廃合の現状。

答 教育部長

平成23年8月に安曇川学校給食センターの委託業務が満了するため、これらの時期を整合して高島学校給食センターの業務を安曇川学校給食センターに統合してまいります。

(仮称) 地域活動活性化事業補助金について



秋永 安次 議員

有効な土地利用計画を図るための農業振興地域整備計画の策定を



廣本 昌久 議員

問 農業振興地域整備計画の見直しは、今年度から2ヶ年をかけて行われる。高島市の将来構想を見据えた中で、農業基盤の現状把握と共に土地利用の見直しを含めた市全体の計画策定として捉えなければならぬが、どのようにつまえているのか問う。

答 産業経済部長

将来を見通した農業振興地域整備計画の策定を進めます。

問 心のかようなづくり・まちづくりを

答 人と人が支えあい、心のかような地域づくりを推進するためには、市民と行政が役割と責任を明確にし、自主的、主体的なコミュニティづくりを推し進めること



耕作放棄地などの有効利用を

問 孤独死を生まない隣近所の見守り機能を維持、強化するため、各コミュニティで培われてきた互助や共助の風土を基盤として、人々の支え合いを通して心がかようなづくり、市民活動団体など多様な主体が共に協力し、支え合う重層的な「協働型のまちづくり」に向けて、一括補助金制度などの取組みを進めます。

問 高島市の誕生を全国に発信する一方策として、また高島市の経済を活性化させ、市民にも「夢」と「希望」を与える為に、「OBC高島」の誘致事業が前市政の下で華々しく行われた。

問 その「OBC高島」が僅か4年で分裂し、今は双方が「スポンサー」や選手の雇用先の取り合いをしている現状がある」との話が聞かえてくるが、このような情けない事が市内で起こっていないのか？

答 市民や企業から熱烈な応援をもらい、また「ふるさと納税」や多額の市税までも注ぎ込んできた結果が、このような事になっていくが、市民の理解が得られると考えておられるか問う。

問 学校給食について

答 学校給食は、心身の健全な発展を図ることを目的として実施されるか問う。

答 産業経済部長

今後は、市民の皆様とともに応援をさせていただきます。

問 学校給食米の市補助の現状と今後の対応。

答 産業経済部次長

引き続き地元産米を使用します。

問 高島、安曇川学校給食センターの統廃合の現状。

答 教育部長

平成23年8月に安曇川学校給食センターの委託業務が満了するため、これらの時期を整合して高島学校給食センターの業務を安曇川学校給食センターに統合してまいります。

問 学校給食米の市補助の現状と今後の対応。

答 産業経済部次長

引き続き地元産米を使用します。

問 高島、安曇川学校給食センターの統廃合の現状。

答 教育部長

平成23年8月に安曇川学校給食センターの委託業務が満了するため、これらの時期を整合して高島学校給食センターの業務を安曇川学校給食センターに統合してまいります。

問 農業振興地域整備計画の策定に当たっては、現状を十分に調査したうえで、地域資源の活用と自然との調和が取れた、また足腰の強い農村環境づくりを目指し取りまとめを行うとともに、先に策定され

問 心のかようなづくり・まちづくりを

答 人と人が支えあい、心のかような地域づくりを推進するためには、市民と行政が役割と責任を明確にし、自主的、主体的なコミュニティづくりを推し進めること

問 孤独死を生まない隣近所の見守り機能を維持、強化するため、各コミュニティで培われてきた互助や共助の風土を基盤として、人々の支え合いを通して心がかようなづくり、市民活動団体など多様な主体が共に協力し、支え合う重層的な「協働型のまちづくり」に向けて、一括補助金制度などの取組みを進めます。

問 高島市の誕生を全国に発信する一方策として、また高島市の経済を活性化させ、市民にも「夢」と「希望」を与える為に、「OBC高島」の誘致事業が前市政の下で華々しく行われた。

問 その「OBC高島」が僅か4年で分裂し、今は双方が「スポンサー」や選手の雇用先の取り合いをしている現状がある」との話が聞かえてくるが、このような情けない事が市内で起こっていないのか？

答 市民や企業から熱烈な応援をもらい、また「ふるさと納税」や多額の市税までも注ぎ込んできた結果が、このような事になっていくが、市民の理解が得られると考えておられるか問う。

問 学校給食について

答 学校給食は、心身の健全な発展を図ることを目的として実施されるか問う。

答 産業経済部長

今後は、市民の皆様とともに応援をさせていただきます。

問 学校給食米の市補助の現状と今後の対応。

答 産業経済部次長

引き続き地元産米を使用します。

問 高島、安曇川学校給食センターの統廃合の現状。

答 教育部長

平成23年8月に安曇川学校給食センターの委託業務が満了するため、これらの時期を整合して高島学校給食センターの業務を安曇川学校給食センターに統合してまいります。



OBC 高島の野球教室